

平成 16 年度第 1 回 歌舞伎町ルネッサンス推進協議会 会議録

- 1 日 時 平成 17 年 1 月 27 日(木)午後 2 時から 4 時まで
- 2 場 所 新宿区役所 5 階 大会議室
- 3 進行内容
 - (1) 新宿区長あいさつ
 - (2) 歌舞伎町ルネッサンス推進協議会委員紹介
 - (3) 歌舞伎町ルネッサンス推進協議会会則の確認
 - (4) 歌舞伎町ルネッサンス推進協議会の会計・監事の選出
 - (5) 歌舞伎町クリーン作戦プロジェクト会則の確認
 - (6) 平成 16 年度歌舞伎町ルネッサンス推進協議会活動計画等の確認
 - (7) これまでの歌舞伎町対策の取り組み等について(パワーポイント)
 - (8) これからの歌舞伎町ルネッサンスの進め方について
(歌舞伎町対策についての意見交換等)

4 会議内容

新宿区助役

皆様には大変お忙しい中、中山弘子新宿区長がお呼びかけをいたしましたところ、このようにたくさんの方にお集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまから、第 1 回目の歌舞伎町ルネッサンス推進協議会を開催させていただきます。まず、お呼びかけをいたしました中山新宿区長からごあいさつをお願いします。

新宿区長(あいさつ)

皆様こんにちは、新宿区長の中山弘子でございます。本日は大変お忙しい中をお集まりいただきまして本当にありがとうございます。歌舞伎町ルネッサンス推進協議会をここに各界から、このように多くの皆様にご参加いただき開催できますこと心から御礼申し上げます。

皆様もご存知のとおり、今、歌舞伎町は、違法風俗店や悪質な客引きの横行、ごみやタバコのポイ捨て、老朽化した複合ビルの不適切な維持管理等、安全安心や環境美化等の面で様々な問題を抱えています。私は、こうした問題に対して地元とともに警察署をはじめとした関係行政機関が一体となって取り組んでいくことが必要であると考え、この間多くの方々のご協力を得て、歌舞伎町のクリーン作戦など様々な対策に取り組んでまいりました。

歌舞伎町のまちは、戦災で消失した町を当時の町会長を先頭に住民が自ら立ち上がり復興させ、歌舞伎劇場の誘致を初めとして日本一のアミューズメントセンターを建設しようとしたことを生い立ちに持つ町です。私は、戦後の歌舞伎町を復興した人たちの思いと、今、歌舞伎町を安全で誰もが楽しめる町へと再生しようとする人たちの思いを重ね合わせて、ルネッサンスという言葉に託し、皆様とともにこの歌舞伎町ルネッサンス

推進協議会の取り組みを進めていきたいと考えております。

一つのまちを再生するために地元の方々を初めとして、これだけの国の省庁・自治体・有識者の方々が集まり英知を結集する会議は初めてのことでないでしょうか。

また、今回こうした地元団体・事業者・新宿区・東京都・国の関係機関が一同に介して協議し、加えて有識者の皆様からも安全安心・文化の発信・まちづくりのそれぞれの観点からのご意見を頂戴する機会を得られましたことは、歌舞伎町を再生する絶好のチャンスであると考えています。

今国会における小泉内閣総理大臣の施政方針演説の中でも「新宿歌舞伎町を始めとする全国の繁華街から暴力団や外国人犯罪組織を排除し、健全なまちに再生するため地元を挙げての住民の自主的な取り組みを支援する。」と述べられています。

今年は、戦後60年を迎える記念すべき節目の年でもあります。ぜひこの好機を生かして歌舞伎町ルネッサンスを一丸となって推進してまいりたいと考えております。皆様どうぞよろしく願いいたします。

新宿区助役

それでは続きまして、大変お忙しい中、本日ご出席していただきました委員並びにオブザーバーの方々をご紹介させていただきます。

(委員及びオブザーバーの紹介)

新宿区助役

つぎに、歌舞伎町ルネッサンス推進協議会の組織の構成と会則につきましてこの概要を簡単にご説明させていただきます。お手元の資料の2ページをご覧くださいと思います。この協議会の全体構成でございますけれども、上の欄でございますように、この推進協議会では、只今ご紹介させていただきました有識者の方々、地元事業者の方々そして行政の方々によって構成させていただいております。この協議会の下に、クリーン作戦プロジェクト、地域活性化プロジェクト、まちづくりプロジェクトの三つのプロジェクトチームを設置したいと考えております。また、ここの参加団体と記載している部分でございますが、今後の運営協議の内容によっては、柔軟に考えて、また、ご協力をしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして、3ページでございます。ここに、会則の概要をお示ししてございます。まず、設置の考え方については、先程、中山区長からご説明をさせていただきました。それから、2番目の所掌事項と書いてございますが、この4点でございます。それから、その次の構成等でございますが、本協議会の運営にあたりましては、会長を新宿区長にさせていただきたいと思っております。その他会議は公開する等記載してございますが、説明については省略させていただきます。皆様、このような会則をもちまして、今後、運営させていただきたいと思っておりますが、ご承認の程、よろしく願いいたします。よろしいでしょうか。

(異議なしの声、拍手で承認)

それでは、これからは本協議会の会長でございます中山新宿区長に進行をしていただ

きます。では、会長お願いします。

会長

それでは、あらためましてルネッサンス推進協議会の会長となりました新宿区長の中山弘子でございます。進行につきましては、限られた時間ですので可能な限り実質的な意見交換を行えるようにしたいと思っております。この後、会則等の承認もあるのですがそういった部分は簡略に進めさせていただきたいと思っておりますので、どうかご協力をお願い申し上げます。

まず、3ページの推進協議会の会則の第3条の第4項の規定に基づいて、会計と監事を選出したいと思っております。会の規定では、互選となっておりますが、ぜひこの点については、地元の方々に役職を負っていただきたいと思います。地元の歌舞伎町商店街振興組合の理事長の小松さんに会計、歌舞伎町二丁目の町会長の井上さんに監事をお引き受けしていただきたいと思いますと思うのですが、皆様いかがでしょうか。

(拍手で承認)

それでは、ご了承がいただけましたのでどうぞよろしく願いいたします。

つぎに、この協議会の下に設置をするクリーン作戦プロジェクトについて確認をしていただきたいと思います。お手元の資料9ページをお開きください。このことについても事前に資料を郵送しておりますので、会則についてはこれでよろしいでしょうか。

(拍手で承認)

ありがとうございます。それでは、つぎにこの協議会の活動計画と予算についてお計りをしたいと思います。資料4の12ページの部分でございます。この活動計画につきましてもいかがでしょうか。事前にお目どおしをしていただけていると思っておりますのでご承認をいただきたいと思います。よろしいですか。

(拍手で承認)

ありがとうございます。それでは、つぎに、これからの歌舞伎町のルネッサンスを進めていく上で、現在の歌舞伎町の抱えている課題やこれまで進めてきた取り組みについて、簡単にご紹介をしたパワーポイントを用意してございます。まずはこの歌舞伎町の問題についての情報を共有化するためにも、このパワーポイントをご覧になっていただきたいと思います。このパワーポイントを見ていただいた後、皆さんで意見交換を進めたいと思っております。それでは事務局お願いします。

事務局

それでは、ただいまからパワーポイントを上映させていただきます。

(事務局より、パワーポイントの説明)

会長

それでは、このパワーポイントをご覧になっていただいて、いかがだったでしょうか。これからの歌舞伎町ルネッサンスの進め方について皆さんにご意見をいただき、議論を深めていきたいと思っております。

議論の論点は、今のパワーポイントの中でも出てまいりましたように、犯罪インフラ

の除去や環境美化を推進するためのクリーン作戦といった歌舞伎町の現在持っているマイナスをゼロにするための対策、また、そのこととあわせて、文化の発信や地域の活性化、まちづくりといった歌舞伎町が歌舞伎町らしく積極的なメッセージを発信できる、プラスのイメージを産み出す、こういったところにあるかと思います。

まず、有識者の先生方にパワーポイントをご覧になっていただいて、また、現在の歌舞伎町についてのいろいろなご意見、思いのところを、ぜひお伺いしたいと思います。

それでは、佐々先生からお伺いしたいと思いますが、私どもは、この間、新宿警察署を中心に警視庁や警察庁等多くの方々からのバックアップをいただきながら徹底して、犯罪インフラの除去という取り組みを進めていただいております。今後、一層取り組みを強めていくために、やるべきこと、必要なことといった点からぜひご意見をいただけますでしょうか。また、広くどんなことでも結構ですので、ご意見をいただきたいと思っております。

佐々委員

まず、私のこのルネッサンス協議会に参加した動機からお話をしたいと思います。

実は、この「ルネッサンス」という言葉に惹かれました。我々の学生の時代、ここは廃墟でした。光は新宿から、そして、小津組が闇市をとという時代ですが、我々学生は大変貧乏だったけれども、新宿は安全なそして安い町でした。私は、学校が吉祥寺で、そして、伊藤先生は一期下になります。

私自身の新宿区との関わり、記憶というのは、実は、第二次安保闘争の凄まじい街頭武装行動にはじまります。昭和 43 年 10 月 21 日の新宿騒乱事件の時に、私は警備課長でした。この時には機動隊員が 800 人位怪我をしました。4.28、10.21 と、こういう状況の中で、新宿が政治闘争や街頭武装闘争の拠点となって、火炎瓶が飛びかう状態です。特に、忘れもしないのが、45 年の新宿西口のフォーク反戦グループの運動です。毎週土曜日のことなので、17 週間連続、私は日曜日の日の出を西口で見ました。その時に思ったのは、西口から東口に行けないこのまちの不便さについてです。部隊を移動させようと思っても移動させることができない。東西が繋がっていない駅だなとの感じを持ちました。

今から 33 年前、1972 年に、私が警察庁の外事課長をしていた時、リンゼイニューヨーク市長が視察に来ました。当時のニューヨークは、ハーレムも酷いし、惨憺たる犯罪都市でした。一方、日本は、検挙率は当時殺人の 98%位は挙げていて、凶悪犯 80 %、検挙率は全体で 60 %位でした。当時の警察は、一生懸命、治安維持に努めていました。リンゼイ氏は、東京の治安行政を学びに来た訳ですが、後藤田正晴警察庁長官と共に通訳として私も説明しています。後藤田長官は、徹底した拳銃と麻薬の取り締まり、交番制度ときめの細かい民衆と一致協力した警察活動が大切だという事を申し上げ、リンゼイ氏は大変な感銘を受けて帰りました。私は、日本の警察の一員として、世界で最も治安のいい日本、この国の一員であることを誇りに思いました。

それから、30 年経ちまして今度は惨憺たる状況になりました。政治的な闘争はなくな

りましたけれども、外国人犯罪、そして暴力団犯罪が歌舞伎町の代名詞になってしまっていることを情けなく思っています。また、現在、検挙率をご承知のとおり、凶悪犯で52%、半分は捕まっていない。殺人事件もあるいは、凶悪な有名な事件でまだ挙がっていないものもたくさんありますね。そして、なによりも検挙率が20%台に落ちてしまったこと、同時に、警察の不祥事が次々と起こったことは最悪だと考えています。

こういう状況の時に、ニューヨークでは、ルドルフ・ジュリアーニという検事出身の市長が当選しています。ジュリアーニ氏は、マフィアを徹底してやっつけた検事ですが、ニューヨークの犯罪を半分にして、クリーンにして見せるという宣言をして当選しています。本当に最初の一年で殺人事件なんかを半減させましたが、その時の基本が「割れ窓論」(ブロークンウインドウ理論)というものです。ブロークンウインドウというのは、泥棒なり犯罪者は下見をして歩いている。そして、窓ガラスが割れているのを放ってある家は、防犯意識が低いのでその家を狙う。家に侵入して、場合によっては、強盗殺人が起こるといえるものです。一方、窓ガラスをすぐに直せば、犯罪は大きくなりません。ジュリアーニは警察官を3万8千人から4万2千人にまで増やして、少年犯罪や引ったくり、駐車違反等を徹底して取り締まり、4年間で見事に治安を回復しました。私は、60年、70年、80年、90年とニューヨークのハーレムに行っていますが、ジュリアーニになってから、本当に安全に歩けるようになった。我々が逆にジュリアーニから教わる立場になった。そして、攻守ところが逆となったこういう状況については大変残念に思っている。私は、警察のOBとして、ジュリアーニを見返したい。その時にこの話があった。是非とも、そうした意味で、このルネッサンスに参加したい、リターンマッチとしていきたいというのが私の思いです。

私は、歌舞伎町というのは、何も新宿だけではなく、全ての都市に「歌舞伎町」的な場所があり、日本の治安の「象徴」であると考えています。警察庁も、近年いろいろな形でキャンペーンを行い、摘発も進めてきたが、歌舞伎町で行うと六本木や池袋に逃げてしまう。総合行政で一斉にやらないとだめなのだが、東京都内で一斉に行うと、埼玉や甲府、川崎に逃げてしまう。関東管区に広げて、3回ほどやりましたが、大切なのは、警察や消防、税務署や食品衛生行政などが、総合行政で永続的かつ計画的に、そして、システムティックにやらないとだめだと思う。そのため、私は、私が解説しているTV番組でも3回にわたって、警察だけではなく、入管・消防・建築行政部門等の関係機関が総合行政で歌舞伎町対策やりなさいと訴えてきました。

この歌舞伎町対策について、具体的な対策として、一言申し上げれば、機動隊の運用ということです。機動隊というのは、何も警備だとか、重要警備対象を守っているものではない。活用の仕方によっては、暴力団も風俗営業も取り締まれる。効果的な機動隊の投入について検討することが必要であるし、新宿警察署に常駐させ、違法風俗店や暴力団対策に投入するなど、多目的な運用の仕方もあるのではないかと。

総理が歌舞伎町という名前をあげ繁華街の対策に言及し、東京都知事も意欲的であえる。警察からも、交通や生活安全、特に広島で暴走族の徹底取り締まりをやった竹花豊

君が副知事として見出され参加している。そして、地元の新宿区や、さらに地元の地権者、ビルの所有者、商店街の方々が盛り上がりを見せ、参加している。こうした協議会は私も多々参加しているが、参加させられるだけ参加させられてという協議会も少なくない。しかし、これは、私としても何とかなるかもしれないと思えてきた。私も74歳になるし、手術をしたばかりということもあるが、3年間という目標をセットしてやるのであれば、私としてもできる限り力を尽くしたい。

会長

佐々先生本当に力強いご意見ありがとうございました。先生は今日どうしてもお仕事が重なっているということで、途中で退席をされますけども、総合行政で永続的かつ計画的という部分については、大変な示唆となるご意見をいただきましてありがとうございました。

それでは、つぎに、安藤先生にご意見を伺いたいと思いますが、安藤先生は建築家としてのお仕事をされるとともに、瀬戸内海の豊島でオリーブの木を植える活動でありますとか、様々なまちづくりの活動をされています。多くの課題を抱える歌舞伎町でありますけれども自分たちのまちは自分たちで作るといった視点やルネッサンスの担い手といった視点から今後の歌舞伎町ルネッサンスとして必要なこと行うべきこと等についてのお考えをいただけますでしょうか。よろしくをお願いします。

安藤委員

建築家の安藤忠雄といいます。それ程、歌舞伎町を知っているわけではありませんが、70年代の頃は友人が設計したものがあったりして、通っていたこともあります。

近頃の街の様子を見る限りにおいて、復興、ルネッサンスとは、すごいことを考えるなど、その勇気に誘われてきました。

今後一層、国際化が進む中で、アジアの暴力団や外国人暴力団、不法就労者も含めて、無秩序な犯罪の巣窟になることを心配します。香港にもこうした場所がありましたが、一掃され、行く場所を失った人々が日本に集まってきている。そうした状況に対し、確かな姿勢を日本もとらないといけない。日本に來られても困るなと思います。

大阪にも歌舞伎町と同じような場所があります。ほとんど手付かずなまま、不良外国人がますます集まってくるという状態で、一般の市民が非常に不安を感じているんですね。

いろいろな人たちの話を聞きますと、あそこはあのままでいいんじゃないか楽しいよと言う人も結構いるんです。こうした意見もある中で、思い切ってこの街をクリアにしていこうという勇気に、私は敬意を表してやってきました。

しかし、実際には、難しいだろうなと思います。政府も、それぞれの専門家も、ある面では、命がけでやらないと出来ないだろうと。こうした懇談会にも、時々でかけますが、皆さん無責任にしゃべるだけで、終わるとそれきりですよね。やるならば、当人が体張るぐらいのつもりでないと、何も進まない。出来るならこんな難しい「問題」には、関わりたくないのですが(笑)。早くこの場を逃げたいとも思っています。

会長

安藤先生ありがとうございました。今、安藤先生が言っていたのは、反語的に言っているのと私は考えておまして、皆さん、これは、覚悟を決めてください私を引っ張り出したんだからという激励だと思っております。どうぞよろしく願います。

安藤委員

もう一つだけ、申し上げます。私は、「同潤会青山アパート」というものを設計してますが、13年ぐらい前には、地権者のうち、半数の人が開発に反対していて、最初は絶望的な状況でした。もうこれは全然前に進まないだろうと。皆さん、それぞれ思いが違いますし、自分の主張ばかり通そうとする状況でした。日本の法治国家の中で、ごく普通の人たちが話をしてもそういう状況です。それに対し、私が取った手段は徹底的に対話をしていこうというものでした。この対話を約10年間、根気良く続けました。その結果、現在工事が進み、2006年完成というところまでできています。

同潤会の青山アパートでさえ、10年間かかったのですから、佐々先生は3年といわれましたが、この街を再生するには30年はかかるのではないのでしょうか。

会長

どうもありがとうございます。それでは、つぎに、廣江先生にご意見を伺いたいと思います。廣江先生は、歌舞伎町振興組合の顧問として、この間、歌舞伎町にいらっしゃっています。そして、廣江先生のゼミの学生のみなさんにも、オープンカフェ等を企画してもらい、歌舞伎町の楽しさ引き出し、盛り上げていただいたりしているわけですが、日ごろの関りの中で、特にまちの活性化、担い手といった視点からみて、いかがでしょうか。ご意見をいただけたらと思います。

廣江委員

立教大学の廣江です。豊島区の教員がなぜ新宿かということもありますが、私は育ちが新宿で、幼稚園から大学まで、新宿区でした。ほぼ半世紀の間、新宿に住み、大久保にいたので、歌舞伎町は子供の頃からの遊び場でした。ミラノ座にもよく行って、当時の70ミリ映画も何本も観ています。そういう縁もあって、歌舞伎町商店街振興組合に、数年前から関わらせていただいています。

大学の教員は評論家が非常に多いのですが、私の信条は、「事件は現場で起きている。」ということです。私自身、現場が大好きなので、自ら「どぶ板教員」と呼んでいます。

商店街振興組合の皆さんに一番最初に申し上げたのは、「儲けましょうね」ということです。ご承知のとおり歌舞伎町というのは、非常に露骨な市場原理が横行しているところなんです。ここで利益が上がるからいろんな人が集まる。それをどのように社会常識の範囲の中での市場原理に変えていくのか、このことが大切だと、私は思っています。

商店街振興組合との関わりの中で、最初にお手伝いしたのが、「安全宣言」の策定です。これは、商店街振興組合の皆さんが地域から自分たちのまちを安全にしていこうという決意の基を示したもので、例の火事が起こる前に作成したものです。多分ご承知のない

方も多いと思いますが、今日、パワーポイントで示された歴史的背景も含んだ文章で、非常に格調高いものだと思っておりますので、是非お読みいただきたいと思います。次にお手伝いしたのが、「振興組合のホームページ」の作成です。

「安全宣言」を出したり、「ホームページ」を作成したりして、いったいどうするのかという批判も振興組合内部からいただきました。しかし、まず、自分たちがやることによって、視野が広がり、まちがよくなるということを実感してもらうことが、何よりも大切であると、私は考えています。このホームページは、「歌舞伎町」で検索していただきますと一番最初に出てきます。また、「アゲハ」という名前でも検索できます。「アゲハ」というのはご存知のように歌舞伎町の由来である歌舞伎の紋章です。

次に、行ったのが、歌舞伎町で働いている人たち、歌舞伎町に来る人たち、これを顔の見える関係に変え、公共空間を活用し、自分達で賑わいを創出するという事です。先程、オープンカフェの紹介がありましたが、その前の年に、歌舞伎町の中にある公園を使って、「フットサル」という小型のサッカーを行いました。ホストクラブや在住外国人の方も参加していただいて、非常に良かったと思います。その次の年に行ったのがご紹介いただいた「オープンカフェ」です。「オープンカフェ」というのは、まちの中に自分たちで賑わいを創り出すという試みです。同時に、公共空間をどう使うかという試みでもあります。日本の公共空間は、大分、規制緩和が進んできましたが、正直、非常に使いにくい。例えば、イタリアでは、広場は一定のルールの下に利益活動を認め、地域振興のために再投資するようになっている。私は、日本もそのような公共空間の使い方をすれば良いと、常々、思っています。

「オープンカフェ」をやるためには、様々な問題を解決していかなければなりません。今回の企画は、学生がゼロから始め、実現に至ったものです。非常に小さなスケールでしたが、多くの関係者が地域を変えていこうというこの時に、行政や地元、映画関係者のご協力もいただきながらこうした企画を実現できたことは、歌舞伎町の背景にある暴力団の大きな力に比べればはるかに小さなものですが、実は一番大切なものではないかと思えます。

最近、非常に変わったと思うことがあります。ご覧になった方もおられると思いますが、「ロストイントランスレーション」という映画がありました。この映画の最初の日本の場面は歌舞伎町です。一番最後は新宿駅西口の電気店街です。新宿で始まり新宿のホテルに住み、新宿で終わるというストーリーであり、この映画を見るといかに新宿が国際的な評価を得ているかがわかります。10年ぐらい前の映画ですと東京の第一印象は、秋葉原か銀座です。随分変わってきたと思うのが、海外のクリエイターが歌舞伎町あるいは新宿に注目していることであり、彼らがどう見ているのかということは甚だ興味深いことだと思っています。

歌舞伎町の皆さんにいつも申し上げるのは、悪い悪いと言われてきたところだから、少しでも良くなれば話題になるのだということです。私は、歌舞伎町が良くなれば全国の商店街を励ます材料になり、それが全国のモデルになれば、歌舞伎町にとってこれほ

ど名誉なことはないだろうと申し上げています。

全てをローラーで根こそぎ無くすのではなく、今ある歌舞伎町の良さをうまく生かしながらどう良くしていくか。このことを行政機関にもご協力もいただき、映画関係者とも協力しながら大きく変えていく、そういう弾みをつける必要があると思っています。

会長

廣江先生ありがとうございました。廣江先生は、地道に歌舞伎町に関していただいている中からご意見をいただきました。

それでは、つぎに、いとうせいこうさんにご意見を伺いたいと思います。いとうせいこうさんは先程のパワーポイントでも説明がありましたが、一昨年から新宿に会場を移した東京国際ファンタスティック映画祭を通じて、この間、歌舞伎町に関していただいております。歌舞伎町のクリーン作戦でも、ほうきを持って掃除をしていただいたということもあります。

いとうせいこうさんには、「歌舞伎町から吹かせる文化の風を一層強くする」、「メッセージ性を持って歌舞伎町の取り組みを発信していく」、そのためには、今後、どうしていくべきといった切り口から、ご意見をいただきたいと思います。

いとう委員

ご紹介にあずかりました「いとうせいこう」と申します。マルチクリエイターという肩書きとともに、東京国際ファンタスティック映画祭のチーフクリエイターをしています。

これまで、東京国際ファンタスティック映画祭は10数年渋谷ですべて開催していましたが、渋谷のパンティオンという劇場がなくなるということで、新宿ミラノ座に移ってきました。

歌舞伎町というと危ないまちという気持ちも若干あったのですが、逆に、事務局の意見として、刺激的なまちという意見もありました。渋谷には、渋谷の良さがあるのですが、歌舞伎町には、雑然としたエネルギーがあり、映画館に入る前から、映画が始まっている気にさせるというエキサイティングな感じをもっていると感じています。

こうした中で、とにかくやってみようということで、僕自身もクリーン作戦にも参加をしました。クリーン作戦ということで一言申し上げれば、例えば、本当にお金のない学生でしたら、映画を観たい時に、歌舞伎町で1時間クリーン作戦に参加したら、映画のチケットを1枚もらえるということもあっていいと思います。

まちの人は気づいていると思いますが、映画祭を開催する4・5日間は、まちに来るお客様の質がちょっと変わっていたと思うんですね。映画が好きな人たちがゾロゾロと集まってきては、朝まで映画を観て帰っていく。そうしたことは、歌舞伎町では、しばらくなかったことではないかと思っています。

安藤さんは30年、佐々さんは3年かかると言われました。廣江さんの言うとおり全部を変えることは、まず不可能ですし、民間的なパワーも落ちてきてしまうので、やるべきではないと思います。ただし、シンボリックなゾーンを変える、まちの顔を変えると

ということだけでも、随分と歌舞伎町のイメージは変わるのではないのでしょうか。

ですから、中山区長には申し上げているのですが、東京国際ファンタスティック映画祭の期間だけではなく、是非、あの広場を映画関係者に開放してもらえないか。2ヶ月に1回でも3ヶ月に1回でもいいから、そこで何かのイベントがある、そこに行けば新しい映画の製作の話が聞ける、東京のどこでも聞くことができない、インターネットでも聞けない生の声があそこに行けばと聞けるといったことができれば、私は、あそこが映画のシンボリックゾーンになっていくと思います。そして、是非、そうしたことをファンタスティック映画祭としても、共催する形でやっていきたいと僕たちは考えています。

シネシティ広場の周りは、「青空の見えるシネコン」と言われていますが、今、シネコンは非常に無機質なものが数多くあります。

あれだけの映画会社の方々がビルを持ち、広場もあるのであれば、このインフラを活かさない手はないと思います。例えば、ビルとビルを繋げて、「シネマダンジョン」にしてみる。映画館のほかにも飲食店なども回遊性をもたせることができれば、さらに、面白く、まちの魅力を高めていくことにもなる。

こうしたことをしていけば、「風俗のまち」、「ヤクザのまち」といった歌舞伎町のイメージを変え、「映画のまちでしょ」と言う人も一人、二人と増えてくるのではないかと思います。そして、これまでのイメージと新しいものと半々位までには、2、3年くらいでもっていけるのではないのでしょうか。

文化的なムーブメントを引き起こす効果的な方法は、まずあのインフラを活用すること。新宿が何かをやり始めているという感じを出すことだけでも、随分と今までのイメージは変わると思います。

会長

いとう委員、どうもありがとうございました。とても具体的な意見でしたので、すぐにでも、取り組めるところがいくつもあったかと思います。

それでは、つぎに、伊藤滋先生にご意見を伺いたいのですが、歌舞伎町のまちは、現在、様々な問題を抱えているわけですが、都市の再生といった視点、あるいはもっと幅広い視点から、ぜひご意見をいただけますでしょうか。お願いいたします。

伊藤委員

先程、佐々さんが申しあげましたけれど、縦割りではなく、複数の行政が一緒になって仕事をする事は、行政の受益を受けてる私たちにとって安心なことであり、重要なことだと考えています。

本当に僕はそう思っていて、例えば、消防庁の査察のときも警察と一緒にいくことは消防の人たちにとっても、ものすごく心強いことだし、おじちゃん、おばあちゃんの所に行く時に、介護の方たちだけではなく、消防庁の婦人消防官に行っていたかと、介護のほかにも、どういうところに住み、どんな危険性があるかが一緒に分かります。そして、バックデータとして残しておく。そのことはすごくいい事なんです。

歌舞伎町についても、そうしたことはものすごく大事だと考えています。

例えば、歌舞伎町では、固定資産税はどうしているのか。この際、区役所は、基本的な土地の権利関係は地籍調査を通してきちんと把握する。いいかげんな情報を集めるのではなく、固定資産税徴収の建物台帳も、地籍調査に基づくきちんとした建物台帳を整備して、徴収する。そういう基本的な土地と建物に関するご調査を一つずつやっていくことで、少しずつ状況は変わっていくかと思います。

私もかなりの固定資産税を納めているが、区役所は僕の家の子の建物の建坪をきちんと捕捉していますか。国の地籍調査会でも、はっきりとした答えはありません。

せつかくの機会ですので、区の本業業務あるいは都の本業業務の固定資産税徴収の一番根本の土地の権利関係について、地籍調査を行い、そして正確な台帳を整備するということを申し上げたいと思います。

次に、そのことに関連する防災の話として、地震が起きた場合、特に、夜、地震が起きた場合の避難や建物の安全性について、お話しします。

先だつての火災事故では多くの方が亡くなった。地震の時には、こうしたことはいくらでも起きる危険性がある。ですから、現在、東京消防庁が一生懸命やっているとは思いますが、本当に安心なのか、安心ではないのか、一つひとつの建物を調査しておく必要がある。また、避難通路の設計等、建物を建て替えるときにはきちんと設計させる。歌舞伎町で不動産を経営する方にも、避難通路がブロックされないようにきちんと建物を管理させる。こうしたルールを徹底させていくことが必要であると考えています。

建物は年平均3%更新されれば、30年で一回りとなり、全部更新されます。更新される建物は5%でも、2%でもいいとは思いますが、歌舞伎町全部の建物が10年後に、同じ古い建物のままかということ、そういうことはない。必ず、壊して建て替える。その時には、防災だけではなく、防犯の面からも、設計をチェックする。そのことを仕組みとして確立しておく。

歌舞伎町が極めて特殊な場所という前提にたつて言及すれば、地籍のことで、建て替え時の確認のことで、継続的にチェックをできるのは行政しかない。民間にできるものではないし、継続性を担保できるのは行政しかない。こうした取組みによって、行政が変わったということ、地権者や建物所有者に感じられるようステップを大きく踏み出すということがとても大事だと考えています。

昨年暮れには、小泉総理と話をすることがあって、生活安全基本法を制定して、行政機関とともに、ボランティアやNPOの取組みを活性化させるべきであると申し上げました。

防災には、災害対策基本法があり、国も東京都も新宿区も災害対策基本法に基づいて、それぞれ防災対策の基本計画を策定している。そして、地震や津波の時の対応を定め、行政的なマニュアルとして活用すると同時に、それを手直しすることで国民の防災訓練は動いている。僕は、これは一種の国民参加の法律なんだと思っています。

こうしたことを安全ということでもできないかと思う。行政だけではなく、町内会やNPO等が集まって安全についての基本法に基づいて、それぞれが条例や組織の

綱領を作ったりして、申し合わせ事項は全部やっていく。そうした基本法が必要なのではないか。歌舞伎町を是非こうしたモデルにしていければと思います。

会長

本当にどうもありがとうございました。非常に基本的なそして、私たちにも宿題をいただいた部分を、つぎの会議につなげていきたいと思います。それでは、つぎに戸沼先生にご意見を伺いたいと思います。戸沼先生は、私どものまちづくり懇談会の委員もしていただいております、歌舞伎町についてもいろいろご意見をいただいておりますが、是非よろしく願いいたします。

戸沼委員

戸沼と申します。私は田舎から出て来まして、学校が早稲田だったものですから、この間、歌舞伎町との関わりは50年になります。

この50年の間、歌舞伎町の変化は連続的に起きています。正直、いつから、どういうふうになっていったのかはよくわからない部分もあります。ただ、歌舞伎町の持っているDNAみたいなもの、それは生きついているのではないのでしょうか。

例えば、戦災復興で1945年以降の50年ぐらいまでの間に、このまちづくりを進めたのが先ほどパワーポイントにもあった鈴木喜兵衛さんでした。早稲田で都市計画の先生をした石川栄耀さんが応援をして、今あるコマとかミラノ座とかあの前のスクエアを作りました。あれは非常に洒落たスクエアで、私どもの学生の時も、西洋風の都市計画の走りみたいなものとして、よくこれが教材にとりあげられました。

また、この協議会の区域には入っていませんが、花園神社のとなりにゴールデン街というところもあります。ここも戦後、立ち上がる時、若者がそのエネルギーをベースにしたようなところが、歌舞伎町と同じくあったかと思います。

ある種の何か光を歌舞伎町からとか、新宿からというような言い方も出たくらいに混沌の中に希望を見出していった時代というのが、僕はゼロからの立ち上がりの時代としてあったのではないかと考えています。そして、そこには男女の出会いがあり、ダンスホール・スケートリンク・歌声喫茶で出会う時代から男女の出会いがもっと個室化に入った時代、それから売春防止法の時代といった流れの中で歌舞伎町は変わってきました。

こうしたことの是非について、いろいろな意見はあると思いますが、その時に、田舎から来た若者が安心するのは「地べた」ですね。「地べた」に足をつけて、歩くと小さな店に入るという安心感。最近、東京のど真ん中に大きなビルが建って、みんなは「入ると眺めはいいよ」と言うわけですが、かえって私なんかは不安にもなります。

歌舞伎町にも「地べた」を歩くとホッとするような癒しの力というのが、まだまだあるのではないのでしょうか。

癒しということの基本は、人対人なんです。知り合いのおばさん・おじさんがいたりといった、人対人の小空間の中で、人間は癒されるものなのです。

そして、そのことがピークに達するのは、60年、70年ではないのでしょうか。学生的に言えば安保闘争の時代のあたりだと思います。このあたりで、銀座とか浅草などの盛り

場と歌舞伎町の違いが明瞭になってきた気がします。銀座でも、浅草でもない。

なぜか新宿の東口があって、大量の人たちが入ってきて、しかも混沌とした時代で学生も警察も機動隊も絡んでという、そういう混沌を受け入れながら流行る盛り場のイメージを歌舞伎町が作って、混沌を抱えながらも何かを許容していくような凄さというのがあったように気がします。

80年代90年代と言うのは、我が国の高度成長で、大勢の人間が東京に集中し、住居地が多摩の方に移りました。ここにいる役所の人もサラリーマンの人も、大勢、都心の霞ヶ関に勤めていて、朝はとにかく整然と分秒を争って職場に行くわけです。

夜になるとくたびれ果てて、ここ新宿で一服しないと、ガソリン（お酒）を入れないと持たないということで、新宿は赤いオアシスのような役目を果たした。ある意味では、高度成長期のサラリーマンを一番元気づけた場所、歌舞伎町が最も活躍した輝ける時代であったような気がします。

それが過ぎて、人間も少なくなって都心に人の住居が移るということもあって、少し家族の構造も変わり、癒し方が違ってきたような気がします。

高度成長期を過ぎた後不景気になった途端に、外国人の問題もあれば、監視カメラとか、歌舞伎町を構成する様々な要素が変化してきているような気がしています。

伊藤先生や佐々さんも言われたように、歌舞伎町は治安や地震時の対策など様々な問題を抱えています。この点で、歌舞伎町に区役所があるというのは非常にユニークなことで、歌舞伎町にとっては非常にいいことだと私は思います。

さて、これから先のルネッサンスのイメージですが、これはやっぱり地元の人たちが、鈴木喜兵衛さんがつくった様な形で自分たちの発想を前面にだすことが必要ではないでしょうか。歌舞伎町を生活の場として、人々の癒しの場として、あるいは次の時代の新しい混沌を囲っていく、イメージしていくのは、やはり地元の人が主体にならなければいけない。

仕掛けを大げさにする、何かモデル地区としてやるということは、当然あっても良い。ただ、これからのやり方には工夫がいると思います。官はそれなりに整然とやれると思いますが、民の馬力をどうやって掘り起こすかということにかかっています。本当は、できたら、ここに、鈴木喜兵衛さんに来てもらって演説をしてもらいたい。そして、これは思考実験的ですが、歌舞伎町の名前を仮になくしたら、いったいどういうまちの名前になるかということを考えてみるのも面白いかもしれません。

会長

戸沼先生ありがとうございました。

これまで有識者の方々にご意見をいただいたわけですが、少し行政関係の方々、それから何と言っても、やっぱり、地元こそが担い手であるとの意見を、多くの先生方からいただいていますので、残り時間は30分を切っていますが、ご意見をいただきたいと思えます。

まず、最初に竹花副知事、ご意見をいただけますでしょうか。都の治安対策のトップ

であり、かつ、歌舞伎町にはですね、本当に個別的な分野でもご尽力をいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

竹花委員

今、いろいろなご意見を伺いまして、多くのヒントも得たわけでありまして。

この歌舞伎町のマイナスイメージを払拭するためには、ここに巣食っている暴力団を排除し、本格的に取り締まりを行っていく必要があります。歌舞伎町が危険なまちだというのは、外国人の問題もありますが、200 を超える事務所、2000 人を越える暴力団員の存在が大きく関わっているわけでありまして。そして、その前段にあるのが、違法風俗店をどう取り締り、無くしていくかという問題です。この点については、警視庁と一緒に、東京都としても様々な施策を講じていきたいと思っております。

今、伊藤先生が言われた、この土地やビルの権利関係はどうなっているのか。そのことを明確にする中で、誰がこの状態に、暴力団を太らせている状態に、責任を持っているのかということをはっきりと示していかなければいけないと思っております。例えば、この地域の安全を脅かしている存在である暴力団の拠点を作らせない。あるいは構成員をこのまちに入れさせないというような取り組みが、本格的になってくれば、新しい法制に結びつくものと思っております。いつまでも、個々人の被害の申し入れを待って、彼らを検挙する。それも下っ端ばかりを検挙するというような状況から、このまちの安全自体を脅かしている組織、あるいはその活動の構成員の動きをどう抑えていくのかという、すぐれてかなり行政的なその課題にチャレンジする時期が巡ってくる。彼らの活動の実態、その活動を支えている者は、いったい誰なのかということをはっきりと示していくという作業が、私どもに求められていると思っております。そうした点で、今後とも、都としても、区あるいは新宿警察署と一緒に、根本的な対策を進めていきたいと考えています。

もう一つ、ルネッサンスの理念というものがご紹介されました。とても良いことだと思います。しかし、安藤先生のお話ではありませんが、良い理念は打ちたてられるけども、いつのまにか萎んでいく、そういうことは往々にしてあるわけです。萎ませてしまわないために大切なことは、こうした理念を実現する担い手をどれだけたくさん作りだしていけるのかということです。暴力団の排除も必要ですが、「新宿のいいまちをつくる」、「映画のまちをつくる」、「大衆文化をつくる」、こうしたことを行い、そして支える人々をどう確保していくのか。幸い、新宿というまちに望郷の想いを抱いている人は数多くいます。また、若い人たちを含めて新宿を愛する人たち、これは、安藤さんがよく言われることですが、このまちにプライドを持って、このまちを愛する人を、どうやってたくさん結集していくのか。地元の商店街の方々はもちろん、企業の方々や、ここで飲食店をやっている方、ここで利益を得ている人たちはたくさんいるはずで、彼らの思いも僕らの思いも、同じはずで、そうした人たちを、こういう活動の中に、日常的にどう組み込んでいくのか。そして、具体的な活動にどう参加させるのか。この話を夢の彼方に消えていかせないためにも、理念に沿って、具体的な活動を行う人を組織していくことがとても大切だと思っております。

会長

ありがとうございました。それでは、つぎに、原警察署長にお願いします。原署長は、本当に今の歌舞伎町の犯罪インフラの除去という、この活動の先頭に立っていただいているわけです。管轄する警察署長としての決意、今後の取り組み等について、今までのご意見も踏まえながら簡単にお願いできますでしょうか。

原警察署長

新宿警察署の原でございます。それでは出来るだけ簡単に申し上げたいと思います。

先程副知事の方からお話がありましたが、昨年の4月16日から、警視庁は歌舞伎町・池袋・六本木、この三地区を指定いたしまして、副総監を本部長とした三地区対策というものを展開しております。警視庁各本部、そして他の警察署からも動員を得まして、全庁あげて、この歌舞伎町対策を推進しているというところであります。

その結果、8ヶ月半がたちましたけれども、暴力団320人、不良外国人905人、違法エステ、あんぐらカジノ、ワイセツビデオ店等の悪質風俗店201店舗620人を摘発しております。当初約250ぐらいの極めて悪質な店舗があったわけですが、200店舗以上を廃業に追い込んでおります。商売がやりにくくなったということで自主的に廃業する悪質店舗も目だっています。その結果、皆様ご承知のとおりケバケバしい看板が減って、白い看板が目立つようになりました。暴力団のい集、暴力団同士のトラブルも激減している状況にあります。また、暴力団専用の状態であったご存知の喫茶店が暴排活動の推進によって、コンビニに転換するということもありました。安全なまちに大きく変貌しつつあるというのが、治安を担当させていただいている者としての今の感想であります。

風俗営業店につきましても無許可、無届が大幅に減少いたしました。もちろんその結果、許可届出数は11.2%増えておりまして、先程のパワーポイントの数字と変わっておりますが、現在4,338件と大きく増えているところであります。

一方、敵もさるもの、違法エステがデリヘルに転換した結果、デリヘルが倍増しており、現在、353店になっております。そして、それにもないプレールームが必要になりますので、プレールームとして使用するレンタルルーム、これが20%増加し、112件になっております。今後、新たに脱法デリヘルという形態を取り締まっていく必要があると思っております。

この歌舞伎町対策は、警視庁全体、あるいは新宿署全体の犯罪抑止にも大きく効果を上げております。歌舞伎町一丁目・二丁目地区では、引ったくりが前年の62%減少、侵入盗が69%減少、性犯罪が70%減少、街頭犯罪が25%減少する等、多大な副次的効果を生むことが出来ました。もう一つのバロメーターといえるのが110番の件数であります。昨年の7月までは、12%増加しておりました。これだけカメラがあって、これだけ警察官が取締りして、何で110番が増えるんだろうと思っていたんですが、8月以降減少に転じまして5ヶ月間で16%減少しております。

昨年、実現した最大の対策といたしましては、12月の都議会で可決成立いたしました、迷惑防止条例、ぼったくり条例の規制、一部改正であります。これによりまして、客引

きそのものの規制、違法風俗店の場所提供等の規制、さらには、暴力団の地回り等の規制が実現することになります。4月1日に施行されましたら、効果的な運用をして、さらなる環境浄化に努めたいと考えております。

その他といたしましては、花道通りの狭隘化を昨年2回試行いたしました。この試行を踏まえて、また、新宿区の協力を得まして、1ヶ月遅れましたものの2月末には狭隘化も完成し、実現する運びになりました。実は、このことは暴力団対策の重要な切り札であります。暴力団事務所というのは、どうしても車が不可欠なものでありますので、事務所の直近、周辺に車が止められなくなると事務所の価値が失われるわけであります。その結果すでにあきらめて歌舞伎町を去っていく、離れていくという事務所も確認されつつあります。

私は、いつも申し上げるのですが、新宿管内には歌舞伎町ではありますが、2,000人の社員を抱える極めて業績の優秀な株式会社があります。歌舞伎町暴力団株式会社というふうに私はまちの人たちにお話をしているわけであります。その社員2,000人は、なんら汗を流すことなく、昼間から賭博をやったり、麻雀をやったり、お酒を飲んだりしながら、そして善良な人を相手にいたづらをして、高級なマンションに家族とともに優雅に生活しているという実態であります。そして、その株主は、実は地元から利益をあげている人たちなんです。これがまた、違った形態の市場原理とやはりいえると思います。

また、その存在は、先程、副知事のお話がありましたが、歌舞伎町ルネッサンスを推進する上で私は最大の障害だと思っております。暴力団もまたこの新しい試みに利権をみだそうとして、今一生懸命やっているところであります。一方、いわゆるこの優良な会社もですね、最近おかげさまで警察の対策も功を奏しまして、皆様のご協力を得まして、株主が徐々に減少し始めております。上納金が上納できない状態が現実に見られる状況になってきました。今年はそれをさらに拍車をかけて、株主の減少を加速させていきたいと考えております。ようするに金が入らなくなって事務所としての価値がなくなれば、後は歌舞伎町を離れるか解散するかしか方法はありません。今、彼らは歌舞伎町を出るべきかルネッサンスまで残るべきかこれを迷っているところだと思っております。

この歌舞伎町ルネッサンスを成功させるためには、本当に地域と行政皆さんが協力しあって、あらゆる角度からこの株式会社を倒産に追い込むということが不可欠ではないかなと思っております。一部新聞報道でありますけれども、「外れ者の住み家を奪う」のかとか、「怪しい魅力が失われる」とか、そういうことを書かれていますが、これはまさしくそのとおりであります。これは、私たちが今までやってきた努力の成果といえるわけです。これからの歌舞伎町には、「外れ者の住み家」であるとか、怪しい魅力なんか全く必要ありません。新しい文化をどんどん創造していただきたいと思っております。

先程、申し上げましたけども白い看板が大変増えてきております。その白い看板をこれから先どういう色に染めていくのか、どういう色を塗っていくのか、どういう絵を描

いていくのか、これはまさしく、まちの皆さんご自身の責任だと思います。警察署も一生懸命がんばりますので、ぜひとも決断と勇気を持って、暴力団排除を推進していただければ、歌舞伎町ルネッサンスも間違いなく成功すると思いますのでよろしく願いいたします。

会長

どうもありがとうございました。それでは、伊藤消防署長お願いいたします。

伊藤消防署長

新宿消防署長の伊藤でございます。歌舞伎町に対しての防災上の取り組みについてご報告いたします。平成13年9月に発生した明星ビルの火災は、東京消防庁史上最悪の大惨事でした。この負の遺産を教訓に、現在東京消防庁では全力を挙げて、雑居ビルの対策の防火安全対策を取り組んでおります。まず、火災時の安全に避難するための避難路を確保するため徹底した立入検査を行い、階段・廊下部分に物件が放置している者に対してはすみやかに撤去させる等、建物を利用する人の安全確保に努めているところであります。また、テナントの入れ替わりが激しいこの歌舞伎町のまちでございまして、なかなか火災予防対策が徹底されません。歌舞伎町にある全てのビル600棟に対しまして、一斉立入検査を昨年2月17日と12月2日の2回実施いたしました。今後も繰り返し取り組んでいきたいと考えております。この取組みは当庁の全消防署あるいは本庁等の職員の応援を受ける他、新宿区、新宿警察署と連携を密にして、実施しております。また、昨年の暮れに発生いたしました一連のドンキホーテの火災ですが、新宿消防署管内では、2店舗があり、緊急査察を行う等、防火防止対策を進めて自主防火管理体制の不備について、違反指摘を行い是正に努めております。今後ともドンキホーテを含めた量販店全ての対象物に対する防火安全に努めていきたいと考えております。

この他歌舞伎町は、救急事案が非常に多くこれらに対応するため当署といたしましては、12月1日救急隊が1隊増強。さらに今後もますます増える予防業務に対しまして、8名の予防課員の増員が認められました。さらに、歌舞伎町を睨む西新宿出張所には同じく12月1日に特別消火中隊ということで高度の消火技術を持った消火隊を配備して、火災に対する対応も充実しています。このように火災・救急・予防全ての面に対しまして、積極的に資源を投入いたしまして対策を講じてまいりたいと思います。私も学生時代歌舞伎町で通って育った人間です。安全なまちづくりに消防署長として努力していきたいと考えております。以上簡単ではございますが、消防署の取り組みについてご報告させていただきます。

会長

ありがとうございました。実は、この会議、4時までということで後10分位になってしまったのですが、何といたってもこのまちの主人公であります地元の方々から、いままでのご意見を聞きながらですね、意見をいただきたいと思います。最初に振興組合の小松理事長、その後、コマ劇場から、これからの取り組みについて、それから最後に東急レクリエーションの佐藤会長の方からご意見をいただけたらと思います。どうぞよろし

くお願いします。それでは小松理事長よろしくお願いします。

小松理事長

ただいまご紹介いただきました振興組合の小松でございます。本日はこのような機会にみなさんのすばらしいご意見を頂戴いたしましてありがとうございます。みなさんからみれば歌舞伎町は、何をやっているのかというようなお叱り受ける状態でございますが、歌舞伎町も以前は金の玉手箱の時代もあったのですが、今やプリキの玉手箱のような廃墟になってしまいました。地元商店街としては、自ら作成したまちづくり憲章に基づき、歌舞伎町を素晴らしいまちにするよう一丸となってがんばっていきます。違法店舗の排除等にも取り組んでいきますので、皆さんの今後のご援助をお願いいたします。

会長

ありがとうございました。それでは、コマ劇場お願いいたします。コマ劇場は、演歌の殿堂といったイメージが強いんですけども新たなコマ劇場の可能性や、今後のコマ劇場からの文化の発信といった観点から、簡潔にお願いします。

コマ劇場小林支配人

劇場支配人の小林でございます。今日社長の田中が急用で出れませんので、私が代わりに出席いたしました。新宿コマ劇場は、昭和31年12月に開場いたしまして現在、演歌を中心とした興行を1ヶ月単位で行っております。地方からの来場者も非常に多く、栃木県とか群馬県とかあるいは山梨県とか、歌舞伎町の中でまた違ったお客様が毎月いらしております。お客様が満員になりますと約10万人弱の来場者になります。施設自体もかなり古いので、避難訓練等の安全策にも取り組んでいます。

また、「演歌の殿堂」といった劇場のイメージもあるかとは思いますが、対外的な発表はしていないんですが、今年の5月から8月にかけて外国の招へいミュージカルも一応計画しております。今後とも、歌舞伎町からの文化の発信に貢献していきたいと思えます。

会長

ありがとうございました。それでは、東急レクリエーションの佐藤会長お願いします。シネシティ広場は、まさに新宿歌舞伎町の象徴的な場所ですけども、佐藤会長はシネシティ広場を囲む劇場街の事業者を代表して、より魅力ある劇場街づくりといった視点から、お話をいただけますでしょうか。

佐藤会長

ごく簡単に私の所見を述べさせていただきます。まず、今日は区長、佐々先生、大学の先生、原警察署長、伊藤消防署長の話聞いて、国、都、区をあげて治安を回復して歌舞伎町のまちを再生しようとの意気込みで、私どもは歌舞伎町で、映画館を運営する興行各社は、感激しています。2003年6月末に、私どもが50年弱経営してまいりました渋谷の東急文化会館を閉鎖しまして、さっそく7月に新宿区長のところに参りました。区長さんには、「実は、先だって渋谷の東急文化会館を閉鎖しました。私共としては、今後、新宿の歌舞伎町に100%軸足を移してまいります。したがって、区長さんひとつよる

しく願います。」と申し上げました。

その時は、既にルネッサンスの胎動があったわけです。そして、環境浄化やまちの清掃、シネシティの活性化等をその後図ってきたわけです。

そして、昨年3月、東宝の会長とヒューマックスの会長、東亜の社長と4社で話し合いをいたしました。ともかく、50年近くになっているから、我々の事業所も再建、再構築を行う必要があるのではないかと。4社とも基本的には合意に達しましたが、ただ、4社の抱えている問題には様々な問題があります。したがって、いつ頃、どういう形式で何をやるかということは、今日、申し上げることはできません。ただ、先程来、申し上げているとおり、国、都、区が一体となって、まちと力をあわせて、歌舞伎町のまちを再生しようということですから、私共としても、もちろん諸手を上げて帯同していきたいと考えております。

私自身、昭和30年から、東急レクリエーションの社員として、12年間青春時代を歌舞伎町で過ごしました。歌舞伎町を愛する気持ちというのは、それこそ中山区長に勝るとも劣らないものを持っていると思います。したがって、区長が会長をされるルネッサンスこれにも諸手を上げて賛成をします。最大限、協力をさせていただきたいと考えております。

会長

どうもありがとうございました。皆様、今日は、本当にたくさんの意見をいただきありがとうございました。このようにいただいた様々な意見ですが、先程、安藤先生からは、「最初にこういうところで意見を言っても、萎んでいってしまうことが多い。」とのお話がありました。具体的な仕掛けの部分でも、いろいろとご意見をいただきましたので、次回の協議会の際には、どう担い手が大きくなり、どう展開させることができているのか。こうしたことについて、皆様方と情報を共有して、一步一步進めていく協議会にしていきたいと思っています。そして、来年度はできたら、この協議会を3回位は、開きたいと思っています。

本日は、本当にありがとうございました。皆様方に御礼を申し上げますとともに本日いただいたご意見は、一つひとつ受け留めさせていただき、私どもは活かしていく。そして、何がどこまで進められたかということ、明らかにして、説明責任を果たしていくということ、ここに約束させていただきまして、本日のこのルネッサンス推進協議会を閉会したいと思います。本当に皆様ありがとうございました。